



突撃!

Vol.43 2012.12

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.41 日鋼記念病院 医療安全対策室 看護主任 梁井史子 様



【病院外観】



【梁井様】

■病院概要

1911 年私立楽生病院として開設し、日本製鋼所職工共済会病院と改称
 1913 年日本製鋼所病院と改称
 1984 年西棟竣工、病床数 363 床となる
 1987 年南棟一期工事竣、病床数 536 床となる
 2010 年社会医療法人化により法人名称が「社会医療法人 母恋」となる
 2011 年病院創立 100 周年を迎える
 地域唯一の地域がん連携拠点病院、災害拠点病院、地域周産期母子センターとして西胆振地域の医療を守っている。
 医療機能評価機構認定病院（ver.6.0）病床数 479 床

■基本方針

1. 医学的根拠に基づいた有効な医療を提供します。
2. 十分な医療情報提供を行い患者の権利を尊重します。
3. 医療の安全性を高めるための努力を組織的に行います。
4. いかなる人にも公正に診療機会を提供します。
5. 医療資源の有効活用をはかり、健全な病院運営を行います。
6. 急性期病院としての役割を担いながら、地域医療に貢献します。
7. 医学研究・高度先進医療などを通じて医学の発展の一翼を担います
8. 臨床研修病院として、次代を担う医師育成をめざします。

1. 組織体制について

—医療安全のための組織体制についてお聞かせ下さい。

まず医療安全推進のための組織として、院長直下に「医療安全管理部」があります。

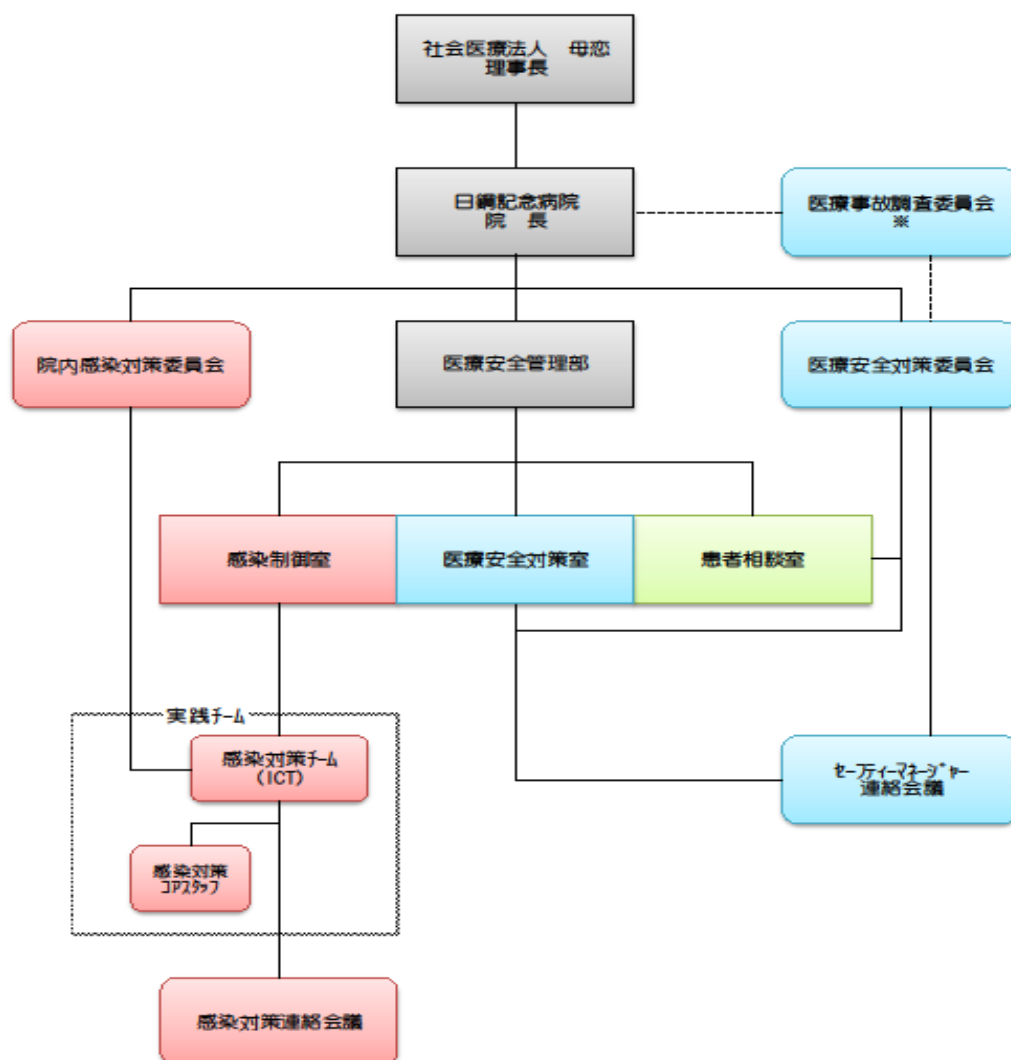
「医療安全管理部」の中には「医療安全対策室」「感染制御室」「患者相談室」があり、それぞれに関わる委員会があります。このうち、安全対策を検討する「医療安全対策委員会」は、医師、看護師、臨床工学技士、薬剤部、放射線、栄養、リハビリ、検査、診療情報管理科、事務、システム総括室のメンバーで構成され、月に一度、1 ヶ月間に上がってきたインシデント・アクシデントの報告件数と分析の検討、医療安全対策マニュアルの承認、新しい医療安全器具導入時の承認、研修報告等を行っています。

また、各部署の所属長が中心の「セーフティマネージャー連絡会議」は2ヶ月に1度行い、最近では事例検討会での事故分析をしています。事例検討会では、あらかじめ各部署で、Medical SAFER※1による分析を行った結果、検討された対応策を発表し、意見を述べ合います。

※1 Medical SAFER(メディカルセーフアー) 医療現場で発生した事故を効果的に分析するための根本原因分析手法(RCA)の一つで自治医科大学の河野龍太郎教授によって開発された。分析作業がわかりやすく手順化されているため、分析に関する専門的な知識を有していなくても取り組むことが可能である。

【日鋼記念病院様の組織体制】

医療安全管理部関連組織図



※ 医療事故調査委員会の招集については医療安全対策マニュアル総論「医療事故発生時の対応」を参照する。

—医療安全管理者(梁井様)の主な業務内容をお聞かせください。

私の1日は、出勤後、まずイントラネットと電子カルテでインシデントレポートの確認をする事から始まります。

毎日事故の大小に関わらずレポートが上がってきますが、気になった事例は現場に出向いて確認しています。

転倒・転落事故対策では、例えば何回か繰り返し転倒されるような患者さんに対して、現場をチェックして何が問題かを判断し、例えば離床センサーの優先使用を指導するなどの対策を検討しています。

転倒転落に限らず、事故報告は日によってばらつきがありますが、多い月で約80件、少ない月で約40件です。当院は1事例を1件とし、他職種が絡む事例もまとめて1件とカウントしています。事故分析をおこなう場合、連絡があれば大きな模造紙をかついで現場に出向き分析・対策立案作業に参加することもあります。

その他の業務としては、既存のマニュアルの改訂および新規マニュアルの作成をその都度行っています。また医療安全関連の研修も年間30回以上開催するので、その企画運営を担当しています。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

—近年の転倒・転落事例の発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

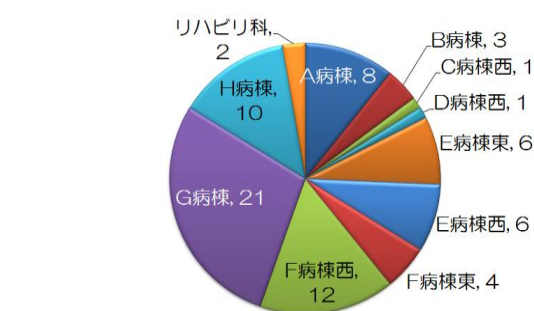
転倒・転落事故の報告件数は、月平均で約30件程度ですが、徐々に増えています。

特に、抑制や鎮静の対象にならない慢性期の高齢者が多い病棟で最近は多く発生しています。

他には、緩和ケア病棟やせん妄の方の転倒・転落も多いです。緩和ケア病棟では、ナースコールで呼んで下さる患者さんもちろんいらっしゃるのですが、全室ホテルのような作りの個室で目が届きづらいので、とても対策が難しいですね。

【事故報告資料からの抜粋】 ＊半年間の統計データ

病棟(レポート入力者所属)別



ICU、4病棟東は
転倒転落事例報告なし

※インシデントのみ

年代別



高齢者は転びやすい

3. 人的対策について

—医療事故防止のためにどのような人的対策をとっていらっしゃいますか？

下記の対策を採り入れています。

①「医療安全ラウンド」の実施

医療安全対策委員が3～4人で一組になり、委員は毎月、部署ごとでは一年に一度、ラウンドします。1年で全部署回ります。ラウンドでは5S活動を中心に見ますが、前回の指摘事項が改善されているかどうかを特に重点的にチェックしていきます。近々、チェック項目を見直して転倒・転落予防のより具体的な対策を立てたいと思っている所です。

②「一時中断カード」で誤薬防止

これは、現場の看護師が自主的におこなっていることなのですが、例えば薬を準備中に呼ばれるなどどうしても手を止めなければならない状況の時に、私が最後まで責任をもって作成しますという「一時中断カード」を置いて皆に分かるようにしています。また、本人が忘れていても周りが気づいて指摘する事が出来ます。こういうことを現場で積極的におこなう姿勢は私にとってもありがたいことです。

【第7回医療の質・安全学会でのポスター発表】

広報活動の中の医療安全対策

～患者参加型の医療安全活動推進～

社会医療法人 母恋
日鋼記念病院 医療安全対策室¹、医療安全管理部²、医療安全対策委員会³
梁井史子¹、柳谷晶仁²、榎原典幸³、植村 進¹、藤井真知子³

日鋼記念病院の概要



創 立 明治44年 1月15日 私立東生病院～日本製鋼所職工共済会病院
大正 2年 7月1日 日本製鋼所病院
医療法人設立 昭和55年 4月5日 医療法人社団 日鋼記念病院
法人名称変更 平成22年 3月1日 社会医療法人 母恋

病 床 数 479床：一般病床 432、緩和ケア病床 22
ICU・CCU 6、HCU 24、NICU 3

認定施設 臨床研修病院（内科・外科）、災害拠点病院
地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院
救急告示病院、小児医療重点化病院

職 員 数 806名：医師 56、看護師 391、薬剤師 11
臨床工学士 12、他 336

医療安全対策の歩み

平成12年 9月	医療事故防止委員会 (現 医療安全対策委員会)の発足
平成14年 8月	医療安全対策マニュアルの発行
平成15年 6月	医療安全対策室の設置
平成18年 4月	医療安全管理加算算定開始
平成19年 8月	医療機能評価Ver. 5.0認定取得
平成21年 7月	医療安全全国共同行動への参加登録
平成23年 2月	「行動目標8：患者・市民の医療参加」を選択
平成24年 9月	医療機能評価Ver. 6.0認定取得

背景・目的

患者参加型の医療安全対策を推進するため、広く視覚に訴える広報活動を通じた取り組みを行っているので具体的な活動内容を紹介、報告する。

広報活動のツール

- 広報誌『日鋼記念メディカル情報』
- 患者図書室ほこい～みんなの医療情報AtoZ
- 院内掲示
- 入院のしおり『入院のご案内』
- 院内売店『セブンイレブン』

日鋼記念メディカル情報

創 刊 1992年(平成4年)12月20日
発行部数 2500部 毎月15日発行
配布場所 院内：約1000部
各病棟デパート
総合案内
キャッシュレスセンター
各診療科待合室
健診センター
看護、サテライト等関連施設

院外：約1500部
・公共交通機関主要駅（室蘭駅、東室蘭駅、バスセンターなど）
・市内金融機関（信金・郵便局）
・公共施設
・関連企業
・日本製鋼所
・連携病院
・就職内定者へ発送 など

● 2012年から隔年で医療安全対策室が1ページを担当。

おまけ こんにちは! 医療安全対策室です。

1月号 ▶ 患者誤認防止
3月号 ▶ 入院中の安全な薬物（絵で説明）
5月号 ▶ 内服薬やアレルギーの自己申告
7月号 ▶ 安全な薬物の運び方（Q&A）
9月号 ▶ 医療被ばくについて①（Q&A）
11月号 ▶ 医療被ばくについて②（Q&A）

2012年1月号



3月号



5月号



7月号



9月号



11月号



患者図書室ほこい

～みんなの医療情報AtoZ

開設/運営 平成9年 『健康情報ライブラリー』の名称で運営開始
平成20年9月 患者図書室として開設・運営
NPO法人「医療の質に関する研究会」
患者図書室プロジェクトの実施

収蔵/設備 ● 書籍：1200冊
● パンフレット：100種類
● DVD：30本
● インターネット端末：2台

活動内容 ● 入院患者・家族へ書籍貸し出し
● 希望パンフレットの提供
● 各病棟に移動図書の実施（病室にも出向）

ポスター掲示・売店・入院のしおり

院内各部署に配布・貼付
(平成22年6月より)

入院案内
(患者に送付説明用紙)

院内売店セブンイレブン

今後の展望と課題

市民向け講演会の企画

- 医療現場の危険性
- 医療安全対策意識の共有
- 信頼しあえる訴訟問題の少ない病院へ

患者の高齢化・多様化に伴い、ニーズに合った広報活動をすることが重要

- 当院が医療安全活動に積極的であることのPR
- 地域住民の理解を促進
- 医療安全活動の活性化 → 医療の質向上

3. KYT について

—「KY 活動」はどのように実施されていますか。

「KYT」は、新入職員オリエンテーション時、看護師対象の卒後 2 年目、3 年目の研修会では必須メニューになっています。

病棟でも毎朝のミーティング時の「危険予知の指さし呼称」が非常に有効なようで、自主的に安全係を決めて、「今月の指さし呼称は〇〇」とテーマを決めて、毎朝発声しているところが多いですね。KYT の研修会は、以前は写真のみで行っていましたが、最近では病室で現場の状況を再現した KYT を行うなどの試みもしています。こういう訓練をすることで、同一内容のインシデントが続いたり、対策が難しい場合に、現場の状況を再現する事により、リスクをリアルに感じ取り、医療安全意識を向上することが出来ると考えています。最近では、看護学生の段階で KYT を経験しているところが多いですね。

4. 離床センサーについて

—離床センサー導入の目的と効果をお聞かせ下さい。

レポートの中で、「離床センサーが報知したから見に行くと患者さんがしゃがんでいた」という報告が数件上がっており、行動把握と早期対応により、大事故は防げていると感じています。

転倒・転落事故は、件数が減っていると実感する事は少ないのですが、様々な対策の効果が無い訳ではありません。先日参加した「医療の質・安全学会」での発表にもあったのですが、重大事故に繋がる転倒・転落を減らす事を目標に置く事が大切です。そのためには、やはり離床センサーは必要ですね。

離床センサーを使用中の重大事故は、今の所発生しておりません。

今は、離床センサーの種類が増え、様々なタイプがあるので、デモ機を試用して効果を検討したいと思います。

—離床センサーの管理、運用上の工夫がありましたらお聞かせください。

今回離床センサーの研修会を行っていただき、現在さらに導入検討を進めていますが、予算に制約があるのでなかなか厳しいですね。今は、数少ない離床センサーを必要度の高い患者さんに使えるよう、病棟間で貸し借りをし何とかやり繰りをしています。管理は現在各病棟で行っていますが、医療安全対策室長が、臨床工学技士長を兼ねていますので、将来的には臨床工学室で中央管理をしたいと考えています。

5. メーカーへの要望について

看護師は、基本的に機器の操作が苦手なタイプの人が多いと思います。

また、常に直感で動いているようなところもありますので、簡単な操作の器械も最初は複雑に感じてしまいます。

そこを踏まえて、使用方法などを具体的に分かりやすくお教えいただければ、助かります。使用説明書もカラーでイラストが多いものを作っていただきたいですね。

6. 最後に、何か一言お願いいたします！

先日、当院では大規模な停電に見舞われ、対応にとっても苦労しました。近隣には製鉄記念室蘭病院さん、市立室蘭総合病院さんがありますが、そちらとも連携を取りながら地域の人のためにより安全な医療を提供したいですね。

「医療安全」は、「医療の質」と直結するものと考えていますので、「医療の質」を高めるためにも医療安全対策にはさらに力を注いでいきたいです！